

刀 剣 界

「西郷隆盛とその時代の刀工達」展

逸話に富んだ作品群に注目集まる

二〇一七年の「大刀剣市」の特展「西郷隆盛とその時代の刀工達」展と題し、太刀一振、刀五振、脇指一振、短刀三振、薩摩大小拵二腰、打刀拵三拵、薩摩金工の大小鐔一点が出品されました。刀は西郷の時代の刀工の作といふより、むしろ、西郷や彼の明輩志士など同時代の武士が所持した刀を中心とした展示となりました。また安倍晋三内閣総理大臣がロシア・プーチン大統領から贈られた昭和天皇御大典の太刀と桐紋太刀拵(首相官邸より特別にお借りしました)が特別展示され、来場者の目を惹きました。

西郷隆盛は薩摩藩下級武士の家に生まれました。青年期に右腕を負傷して武道を断念して学問に打ち込んだ西郷は次第に頭角を現し、ペリー再来航の安政元年(一八五四)、藩主島津斉彬の御庭方に抜擢され、その身边に仕えます。周知のように斉彬は幕末屈指の開明的な君主で、公武合体、幕府と有

力諸藩の連合政権を樹立し、殖産興業と軍制改革の達成を目指していました。欧米列強の牙から日本国を守らんとする理念があったのです。篤姫を将軍家定の御台所として興入れさせたのもすべては斉彬構想の一環でした。

西郷は斉彬の命で情報収集し、時には彼の密書を水戸藩に届けるなど、まさに耳目手足として粉骨砕身働くとともに斉彬の薫陶を受けました。が、斉彬は志半ばで斃れてしまい、西郷は奄美大島・沖永良部島での流人生活を送るなど、生涯は波乱に満ちています。



重文室では静かに名刀を鑑賞する光景が...

西郷の近くで苦業を共にしたのが村田新八・中村半次郎ら薩摩武士たちでした。薩摩武士といえどシゲン流(東郷流)・現流・葉丸流(自顕流)です。彼らは薩摩新刀の伊豆守正房の刀や肥前の近江大塚忠広などの二尺五寸超の長寸の刀を打ち振るい、宿敵を討ち、新撰組など幕府取方と渡り合っています。西郷自身も包永の太刀、徳川に崇ると憚られた村正の短刀、心永信國の太刀を所持したと伝えられています。

今回の展示では、彼らが所持した刀を精緻した刀工たちの刀や脇指が展示されました。わけでも西郷遺愛の金象嵌銘志津の刀や東征大総督・有栖川宮熾仁親王が佩用の村正の刀(公益財団法人日本美術刀剣保存協会蔵)の現品が出品され、多くの来場者が足を止めて見入っていました。

「西郷隆盛とその時代の刀工達」展 出品一覧

太刀	銘 包永 (西郷隆盛に関連)
短刀	銘 村正 (西郷隆盛に関連)
刀	金象嵌銘 志津 (西郷隆盛の所持刀)
脇指	銘 信國 應永四年二月十六日 (西郷隆盛に関連)
短刀	銘 薩州住藤原正房 (村田新八に関連)
刀	銘 肥前國住近江大塚原忠広 (薩摩武士・奈良原喜左衛門の関連)
刀	銘 (一葉葵紋) 玉置主馬首藤原朝臣一平安代 享保九年於薩島給黎都作之 (島津継豊から近衛家久へ)
刀	銘 (一葉葵紋) 宮原主水正藤原朝臣正清 享保九年二月 (島津継豊から近衛家久へ)
短刀	銘 新藤五國光 (佐久間象山の関連)
刀	銘 村正 (有栖川宮熾仁親王の佩刀)
松竹梅に鶏図大小鐔	銘 知識兼置 (花押) (上級薩摩藩士所用)
朱漆塗鞘薩摩半太刀大小拵	(上級薩摩藩士の佩用)
朱漆塗鞘薩摩小拵	(上級薩摩藩士の佩用)
錦包鞘薩摩打刀拵	(調所広郷佩用)
朱鞘薩摩打刀拵	(島津分家旧蔵)
黒緋色塗鞘薩摩打刀拵	(薩摩武士佩用)
特別展示	太刀 銘 大阪住高橋信秀八十四歳謹鍛 昭和三年月日 為御大典記念(金梨地五三桐紋金時給鞘衛府太刀拵) (ロシア・プーチン大統領→安倍晋三内閣総理大臣)

の薩摩拵でした。薩摩藩家老・調所広郷所用の錦包鞘薩摩打刀拵、上級薩摩藩士が佩用したと伝わる朱鞘薩摩打刀拵と黒鞘薩摩打刀拵、島津分家より出た朱漆塗鞘半太刀大小拵、柄に鉄板が着せられた重厚な朱漆塗鞘の半太刀大小拵です。

薩摩藩財政再建の立役者・調所広郷の錦包鞘の拵は長大で、目貫のない長柄には広郷の手の跡が遺され、辣腕家の人物像を思わせるに十分でした。また銀金具が付された半太刀大小拵は薩摩高級の高位の武士の佩用に相応しい貴緑と品格を備えた逸品でした。

最終日午後には調所広郷の拵を含む薩摩拵三拵をお貸しください。調所一郎氏が講演をされました。同氏は広郷の六代孫で、薩摩拵の研究書『薩摩拵』の著者です。累計二百点以上の薩摩拵を手にし、また今でも旧薩摩藩の子孫のお歴々と交流し、話を聞いた同氏の説明は軽快にして適切。今は遠い幕末維新の世も昨日のように感じられ、大変有意義なひとときとなり、特別展も大好評のうち



プーチン大統領からプレゼントされた太刀と拵

初公開！プーチン大統領から安倍総理に贈られた太刀

日本に一番近く、地政学的に平和条約がまだ締結されていないのは異常なことであると言われる国が、ロシアです。近年は経済協力などに官民一体となり、両国民が急速な交わりを見せているものの、領土問題は長年の懸案となっています。

安倍晋三内閣総理大臣とウラジミール・プーチン大統領の首脳会談は既に十九回行われており、日ロの同じ首脳による会談がこれほど多く行われているのは初めてです。両首脳会談の最後は通訳者以外を席を外し、二人だけで一時間も会談するなど、信頼関係は厚く、それに寄せる期待度は高まっています。

昨年九月にウラジミール・プーチン大統領の首脳会談に折には、プーチン大統領から安倍首相に、昭和天皇の即位の礼の際に使用された太刀が贈られました。

プーチン大統領は各国の首脳へのプレゼントを自ら選ぶという凡帳面な一面を持っており、武道の精神を柔道から学んだとされる大

統領ならでの贈り物と思われるかもしれません。日本刀を贈るといふ行為が、単なる社交儀礼のプレゼントではないということも十分理解した上でのご贈り物だと思います。

私たち日本人は、刀剣が神聖で特別なものであるという観念を持っています。同じ観念をロシアの国家元首も抱いていることは喜ばしい限りです。

この度の「大刀剣市」では、そのプーチン大統領より贈られた太刀を首相官邸よりお借りして、東京美術倶楽部の重文室に陳列させていただきます。

昭和三年、即位の礼に使用されたのは、長さ二尺九分、中直刃の出来の優れた美しい太刀で、金梨地五三桐紋金時給鞘衛府太刀拵に収められていました。

太刀の作者の高橋信秀は、出雲国松江藩工の高橋長信の養子となり、後に大阪に出て月山貞一入門します。大阪での名声と技量が高く評価され、御大典の太刀製作拜命の栄誉を賜ったものです。

この度は、大国の国家元首から

「大刀剣市」の三日間が終わって、最初の感想は「あー、楽しかった」です。

私どもが扱う刀や鐔などは、伝統工芸品で二つと同じものがなく、千年の歴史と文化の現れたと思

います。その中でも、たまたま私と出合い、私の好みで揃えた品をたまたま私のブースへ来られたお客さまがそれぞれ条件に合致し、

日本の総理大臣へ御大典の際に使用された太刀が贈られたことの披露と、その太刀が実際に大刀剣市で公開されるという二つのサプライズが重なりました。ご来場いただいた多くのお客さまには、日本刀が過去にも未来にも果たし得る重要な役割を実感されたのではないのでしょうか。

後日、首相官邸をお訪ねし、お借りした太刀の展示と大刀剣市の会場風景の写真を安倍総理に見ていただきました。

総理からは「展示室の中央に厳かに展示していただき、ありがとうございました。これほど多くの愛刀家の方々が集まっている光景に驚きました」と、率直な感想をいただきました。

来年は日本・ロシアの両国間で「日本におけるロシアの年」「ロシアにおける日本の年」とすることが首脳会談で決まりました。

今後も日本刀が国家間の友好の架橋となり、両国民の交流を深めていくことが期待されます。

(嶋田伸夫)

気に入られて購入されるといふ、何とも運命的な出会い。正に縁を感じるのには私だけではないと思

います。大量生産された工業製品の販売とは全く異なるのです。

どんな人の、どんな考え、どんな好み、どんな用途等々全てに込めることはできませんが、興味津々でいろいろな方との出会いが楽しく、新たなお客さまとのご縁を大切にしていきたいと思

います。刀剣の師、故山田均氏がいたら、何と言いますかな。黙って「ニコッ」くらいでしょうか。

なお、出店に際して、ご尽力いただいた役員・実行委員の方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

「大刀剣市」に出店して思うこと

古屋祐介(一文字商会)



大刀剣市の出展ブースにて

私どもが扱う刀や鐔などは、伝統工芸品で二つと同じものがなく、千年の歴史と文化の現れたと思

います。その中でも、たまたま私と出合い、私の好みで揃えた品をたまたま私のブースへ来られたお客さまがそれぞれ条件に合致し、

【産経新聞】平成29年11月18日

大刀剣市特別講演

新しい試みとして、重文室の特別展示に合わせ、展示にも協力

調所一郎氏「薩摩拵について」

いただいた調所一郎氏による記念講演を開催しました。



調所氏の講演に聞き入るお客さま

「大刀剣市」会場内の掲示と放送による案内で、ほとんどの来場者が、開会が近づくとつい重文室前には聴講を希望されるお客さまが列を作り、急ぎよ椅子を増やして対応しました。講演が始まるころには部屋がいっぱいになり、入り口ドアを半分閉めて約五十名の方々が話に聞き入りました。

調所一郎氏は、昭和三十五年生まれ。薩摩藩家老として藩財政再建に辣腕を振るった調所広郷(笑左衛門)の六代孫に当たります。先祖に密接な関係のある薩摩拵を二百点以上、実際に手にして調べた。

調所一郎氏は、昭和三十五年生まれ。薩摩藩家老として藩財政再建に辣腕を振るった調所広郷(笑左衛門)の六代孫に当たります。先祖に密接な関係のある薩摩拵を二百点以上、実際に手にして調べた。

「大刀剣市」見て歩き

夫婦円満の架け橋は…?

「大刀剣市」を担当させていただいて三年目になりました。毎回、

会場には開幕の日の朝に伺っています。翌日掲載の「大刀剣市開幕」の記事を入稿するためです。会場内は初日の朝からずいぶん賑わいです。いっせいで駆け付けた人たちは、

「大刀剣市2017」
あすまで新橋で開催
全国73の刀剣商が出店する国内最大級の刀剣・刀装具・甲冑武具の展示即売会「大刀剣市2017」(産経新聞社など後援)が17日、



港区新橋の東京美術倶楽部で開かれ、多くの刀剣愛好家へ「西郷隆盛とその時代の刀工達」展が開かれ、ゆかりの名刀に加え、安倍晋三首相がロシアのプーチン大統領から贈られた日本刀も飾られている。来場した千葉県市川市の稲葉良市さん(71)は「刀を2本持っているが、もう1本欲しくて」と熱心に見入っていた。

午前10時から午後6時(最終日の19日は同5時)まで。192のカタログ付きで入場料2100円。

今年も取

を、「薩摩藩大保改革関係史料」や「島津斉彬文書」を基に解説。さらに持参の薩摩拵を取り、独特の形を披露、鐔の大きさや特異な返り角、そして小尻金具などの有効性を理論的に話され、会場には聞きながら聞き入る姿が多く見られました。

近年、博物館や個展でも人気のギャラリートーク。今後の大刀剣市も、来場者の方々に楽しんでいただけるよう工夫を凝らしたいと思います。(伊波賢一)

たという組合の方の言葉をもとに、女性の来場者を見たら声を掛けてみることにしました。スタッフらしき人を除くと、お客さまはオッサンばかり。そんな中で、階段のところにあるベンチに座っていた四十代の女性を発見。「主人が会場を回っています」と暇そうでした。相模原市から朝早く出てきて午前中は、主人のお付き合、銀座あたりで食事して午後には主人を買い物に付き合っています。

「ポーズを取ってもらえますか」と恐る恐る声をかけたのは、鞆から刀身を抜き出して怖い表情で覗き込んでいた七十一歳の男性。五分列りイメージの頭もパツリ決まっています。店の方がにこやかに「新聞社の人です」とフォローして下さり、撮った写真が翌日の新聞に載りました(上掲)。ご協力ありがとうございました。後ろかお話を聞こうとしたら、後ろか

「ボーズを取ってもらえますか」と恐る恐る声をかけたのは、鞆から刀身を抜き出して怖い表情で覗き込んでいた七十一歳の男性。五分列りイメージの頭もパツリ決まっています。店の方がにこやかに「新聞社の人です」とフォローして下さり、撮った写真が翌日の新聞に載りました(上掲)。ご協力ありがとうございました。後ろかお話を聞こうとしたら、後ろか

査し、地元の鞆師とも交わり、旧薩摩藩のお歴々とも交流し、聞き伝えている往時の家々のこと、地元にかつ伝わっていない口伝などを粘り強く取材し研究し、平成十五年「薩摩拵」(里文出版)を上梓されています。

ご存じのように薩摩の剣といえは、東郷流現流と葉丸流自頭流とがあり、拵も操刀法に相応して独特の形状です。調所氏は今回、特別展にお貸しくださった調所広郷所用の錦包鞆薩摩打刀拵、上級薩摩武士が佩用したと伝える朱鞆薩摩打刀拵と黒鞆薩摩打刀拵の合計三点と当日持参の薩摩拵数点を用いて、拵の特色、刀の寸法、抜刀の仕方、鞆の金具の形状と拵の用い方、目貫の有無などについて、それぞれ身振り手振りでわかりやすく説明されました。

殊に打刀の鞆を素早く回転させて刀を下にし、下から上に切り上げる登場したのが奥さまで、「主人が体を悪くしたので、(大刀剣市には)初めて付いてきました」とご主人の持ち物らしい杖を手に答えてくれました。「刀剣のほかにバイクだ、山だど一人で好き勝手なことばかりしてきたのに、今はいつも一緒で幸せ」と、揚げ句はのろけられました。刀剣は夫婦円満の架け橋だったのです。

ほかに数人お話を聞きました。が、今回は皆さん「付き添い」のようでした。でもこれは、女性を真面目に探したわけではないこと最後に断っておきます。(産経新聞社・松本篤幸)

「ボーズを取ってもらえますか」と恐る恐る声をかけたのは、鞆から刀身を抜き出して怖い表情で覗き込んでいた七十一歳の男性。五分列りイメージの頭もパツリ決まっています。店の方がにこやかに「新聞社の人です」とフォローして下さり、撮った写真が翌日の新聞に載りました(上掲)。ご協力ありがとうございました。後ろかお話を聞こうとしたら、後ろか

ける技があり、生麦事件で葉丸流の使い手、奈良原喜左衛門が英国人リチャードソンを斬った技がまさしくそれであること、そしてこの惨事が引き起こした薩英戦争の後に、秘密同盟を結んだ英国より最新式火器を買い入れて軍備を整えることができたことが、ひいては倒幕に結び付き、明治維新を引き起こしたこの作家吉村昭の説を紹介されました。

加えて、島津久光の侍に、葉丸流自頭流の武士を採用したのが実は先祖の調所広郷であり、もし彼が葉丸流の武士を多数採用していなければかの生麦事件も起こらず、薩英戦争も薩英同盟もなく、明治維新も起こらなかったかもしれない、と薩摩軍人の末裔ならではの示唆に富んだ自説を展開されるなど、大変、興味深く有意義な講演となりました。(小島つとむ)

私が「大刀剣市」に行くようになって、今年で三年目です。日本刀に興味を持ったきっかけは、二〇一五年に始まった「刀剣乱舞」というゲームでした。大刀剣市の存在はSNSで知りましたが、当時はあまりインターネットに情報もなく、敷居が高い印象でした。参加を決めたのは少しも日本刀に触れたい気持ちからです。二〇一五年の大刀剣市はまだ女性が少ない、男性ばかりで何とも場違いに感じ、ショーケースに近づくと目も瞞げました。目当ての刀は勇気をだして近づきましたが、やはり物珍しかったのか、視線が

私が「大刀剣市」に行くようになって、今年で三年目です。日本刀に興味を持ったきっかけは、二〇一五年に始まった「刀剣乱舞」というゲームでした。大刀剣市の存在はSNSで知りましたが、当時はあまりインターネットに情報もなく、敷居が高い印象でした。参加を決めたのは少しも日本刀に触れたい気持ちからです。二〇一五年の大刀剣市はまだ女性が少ない、男性ばかりで何とも場違いに感じ、ショーケースに近づくと目も瞞げました。目当ての刀は勇気をだして近づきましたが、やはり物珍しかったのか、視線が

気になってドギマギしたのを覚えていました。結局あまり拝見できなかったのですが、その活気や、博物館などよりも身近な日本刀との距離を面白く感じました。

翌年には自分も刀を所持するようになり、日本刀仲間もだいぶ多くなりました。大刀剣市へは日本刀好きの女性を何人かお誘いして行きましたが、一年目に比べるとかなり女性が増え、刀屋さんもその状態にお慣れになったのか、親しげに「持ってみる？」と、私には絶対に買えないような名刀を持たせていただく機会にも恵まれました。その時の胸の高鳴りはまだ鮮明に思い出せます。

そして二〇一七年、私は多くの方へ日本刀の素晴らしさを広めたいと思い、真間浅学(あさな)の身ながら、敷居の低い刀剣勉強会を開く活動をしてきました。今年の大刀剣市へも、初心者講座を行った後、参加者の女性たちをお連れしたところ、皆さま大変楽しんでいらっやいました。

会場の印象としては、昨年にも増して参加者・スタッフともに女性が増えた印象です。刀屋さんにお声がけいたたく機会も多く、楽しく過ごせました。最初は女性だということもあり、ゲームがきっかけで刀が好きになったと言っている顔は少ないのではないかと怯えていましたが、今は温かく迎えていただき、刀に興味があるかわれば、いろいろなお話を聞かせてくださる刀屋さんも多いのだと知って、とても感謝しています。

普段、刀屋さんに入るのほどでもない緊張するものですが、大刀剣市は開けていて、気軽に購入者の立場になることができる貴重な場です。今後ますますのご発展を祈念するとともに、もっと広く日本刀の魅力が知られ、ゆくゆく

は一家で一振日本刀を購入するようになったことを願っています。(普岐刀剣プロモーション)



奥深い世界に触れる幸せ

「大刀剣市」に初めて行ってまいりました。

刀剣・刀装具をはじめ、さまざまなものが所狭しと並べられているの、人の多さに圧倒され、そしてワクワクしました。刀剣鑑賞の勉強を始めて日の浅い私には、本当に未知の世界に迷い込んだようでした。

何わせていただいたお店の方々はどの方も気さくで、刀の見方を丁寧に教えていただきました。鑑賞のポイントを教えてくださいました。刀にまつわる歴史など有意義なお話も聞かせてくださいました。ですが、お店のスペースは決して広いとは言えず、周りを気にしつつ、また、多くのお客さまの視線を感じる中で拝見するのは、とても緊張いたしました。それでも普段なら手に取ってみることもできないような刀の数々に実際に触れられる感動がありました。拝見している間は胸がいっぱいで、とても幸せな時間を過ごすことができました。

も楽しいものでした。会場のあちこちを見て回るのは興味が尽きず、数時間では足りないほどでした。刀装具一つを取っても、細かな細工やデザインなど、眺めるだけで楽しいものでした。本当に知れば知るほど、奥深い世界なのだ、とあらためて思いました。

今回、大刀剣市に伺って、知らなかった世界に触れることへの驚きと楽しみの大切さを感じました。話を聞いたり、読んだりするだけではわからない、会場の空気感やお店の方やお客さまの熱意を感じることができて、とても良かったです。より一層刀への興味が湧き、勉強したいと思いました。

貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

(刀剣研究連合会・D)

刀剣女子にも優しい「大刀剣市」



十二月並みの冷え込みとなった十一月吉日、東京港区に、独特の熱気に満ちた一角があった。東京美術倶楽部にて行われた「大刀剣市」である。

最終日のこの日は、筆者が着いたときには既にカタログは完売しており、市の盛況がうかがえた。最も混雑していたのは初日だったと伝え聞いていたが、この日も人の波をかき分けながらの移動

を繰り返すこととなった。また筆者のような、いわゆる刀剣女子の姿も確認できた。

師に連れられ、刀剣商のブースを渡り歩く。そこには、地域も製作年紀も遍歴も多種多様、美しく華やかな、あるいは、無骨な刀剣や刀装具が並んでいた。

気になる品があれば、店主に声をかける。たいていはブースの中に招き入れられ、そこで初めて品物を手に取らせてもらう。ブース内を照らす明かりを頼りに、飾られた状態ではわからない姿・地鉄・刃文をじっくりと拝見する。

慣れないうちはハードルが高いと感じるかもしれない。しかし、日本刀の基本的な扱い方、鑑賞の作法を十二分に心得ているのであれば、それさえ気をつけていれば何も気負う必要はない。各刀剣商の選りすぐりの品を、一つの会場で一度に堪能できる、何とも贅沢なひとときであった。

(刀剣研究連合会・H)

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
株城南堂古美術店
 代表
田中 勝憲
 〒153-10051
 東京都目黒区上目黒四-1-11
 TEL 03-371-0167
 03-371-0167
 FAX 03-371-0167

現地を訪れたのは、義援金支援活動担当理事・猿田慎男氏(むかし屋代表) / 旗谷大輔氏(九州刀剣会会主・日本刀旗谷代表) / 黒川宏明氏(筑前刀剣店代表) / 越

九州北部豪雨被災地をお見舞い

昨年七月に九州北部を襲った集中豪雨は記憶に新しいところですが、被災された方々への復興の一助となれば、と皆さまよりお預かりした義援金を去る十一月十日、被災地である福岡県朝倉市・同杷木地区・大分県日田市へお届けしてまいりました。

朝倉市・中野副市長に杷木地区を含め義援金を寄付

当組合は過去にも阪神淡路・東日本・和歌山・熊本などの災害に際し、支援活動を行ってきました。このような活動を通して、当組合の意義を組合員・賛助会員の皆さまとともに、広く社会に発信していきたいと存じます。

(佐藤均)

被災地は今なお豪雨がもたらした爪痕が深く、避難生活を余儀なくされている方々、復旧作業に全力を注がれている方々、安全と一日も早い復旧を心から祈る思いで、皆さまに代わって当地を視察してまいりました。

智和哉氏(ギャラリー恵代表) / 瀧石健司氏(古美術淡窓代表) / 常務理事・佐藤均(刀剣佐藤代表)の六名です。

日田市に義援金を寄付

刀剣・宝飾品・高級腕時計・タイヤ
紀伊国屋
 代表
松浦 孝子
 〒372-10812
 群馬県伊勢崎市連取町一八三六一
 TEL 0270-261777
 0270-261777
 FAX 0270-261777

その刀はその場で廃棄処分として提出せざるを得なかったが、帰って「関」刻印の軍刀について調べると、「古式本鍛錬刀は無検査のため、原則として『関』の刻印は打たないが、刀匠の気に入った本鍛錬刀にも打ったという説もある」と関・軍用日本刀について詳細な記述の資料が見つかった。

以前にもこの登録審査員から「責任が重い」という理由で登録証の交付を受けられなかった

このような活動が実現できましたのも、ご支援を頂きました全国の刀剣市場主催者ならびに各市場に携わる会員の皆さまのご協力とご厚意の賜物と、感謝いたしております。

また、今回の支援活動を通じて被災地エリアで活躍する若手の刀剣商の方々との親睦が図れたことも大変意義深いことであったと思えます。

今なお被災の爪痕が残る日市内

その検討結果は文化庁に報告され、程なくして輸出鑑査証明が送られてきた。

われわれ刀剣商の悩みの種である登録証問題が無事に解決された、ありがたい事例である。担当された方々の取り組み姿勢に深く感謝を申し上げます。

(登録証問題研究会)

通常の登録審査を経る手続きでは年四回の当票は数か月を要し、販売のキャンセルになりかねなかった。

そこで文化庁から「登録証の記載に誤りがあり、実際は現物写真と一致していることが発行教育委員会より確認できれば証明書を発行する」との見解が得られたので、当該教育委員会に事情と相違点について説明を行った。

すると、誤りと判断できる画像の送付依頼を受け、その検討がなされた。

「登録証問題」を考える 12

事例 20

所有する刀剣を長年放置して登録証を紛失してしまった某氏より再発行手続きの委任を受けた。代理人として登録審査会で登録証再発行の審査を受けたところ、二字在銘・昭和十七年作の刀一振が「茎に『関』の刻印があるの軍刀である」という理由から登録証の交付が受けられなかった。その刀は、私にはいわゆる昭和刀に一見して見えなかった。

また、委任を受けた者として所有者への説明責任もあるため、「関」の刻印があっても玉鋼で作られ、折り返し鍛錬され、焼き入れをされている刀(古式本鍛錬刀)もあるのではないかと問うと、「関」の刻印があれば軍刀であり、見る必要はない」と取り付く島もなかった。

その刀はその場で廃棄処分として提出せざるを得なかったが、帰って「関」刻印の軍刀について調べると、「古式本鍛錬刀は無検査のため、原則として『関』の刻印は打たないが、刀匠の気に入った本鍛錬刀にも打ったという説もある」と関・軍用日本刀について詳細な記述の資料が見つかった。

以前にもこの登録審査員から「責任が重い」という理由で登録証の交付を受けられなかった

事例 21

海外の顧客と脇指の売買が成立し、文化庁に輸出鑑査証明の申請を行った。ところが、現物写真と登録証記載内容に相違があるので証明書を交付できないと連絡を受けた。相違点は、備州長船家(正しくは「備州長船家」・永享二年日(正しくは「永享九年二月日」)。ただ、登録証交付後もなく取得している特別貴重刀剣認定書があるので、登録証の記載誤りであることは明白。



風向計

其之二十五

深海 信彦

名工左行秀は江戸に出てからは土佐藩の下屋敷内に轡を据え、慶応二年(一八六六)から三年にかけて、その作刀の多くに「於東武富賀岡八幡宮北辺」(於東武砂村元八幡宮北)などその居住地を切り添えている。本社の富賀岡八幡宮は「元八幡」とも呼ばれ現南砂七丁目にあり、富賀岡八幡宮はその分社である。土佐藩下屋敷は当時の砂村(現北砂一丁目)にあり、江戸城に近い上屋敷に対し「深川屋敷」と呼ばれた。

「深川八幡」とも呼ばれた富賀岡八幡宮は、日枝神社、神田明神とともにその夏祭は江戸三大祭としてつとに有名であった。門前帯には辰巳芸者で知られる花街が形成され、当時は全国諸藩に知られた場所であったことから、現在の北砂一丁目位置する鍛冶場は富賀岡八幡宮から北東に二キロ以上も離れていて隣接はしていないが、行秀は有名なこの地を銘文に刻したものであろう。

寛永年間の創建になるその富賀岡八幡宮の敷地内において、昨年十二月、この神社の後継者争いに端を発する殺傷事件が引き起こされた。事件によって神社の宮司を務める姉が容疑者である弟によって殺害され、姉の運転手は容疑者の妻により切り付けられ腕に傷を負った。容疑者とその妻は心中のような形でともに果て、結局三人が死亡し、一人負傷というその因縁深い骨肉の争いに加え、凶器が日本刀であるということから、興味深く連日マスコミに大きく取り上げられた。

姉を襲ったのは刃長八〇センチの刀で、それがどのくらい長さの威圧感、そして殺傷能力があるのかという点にマスコミの関心は高まり、筆者のところに報道各社から取材依頼があった。彼らの報道の最大の切り所は殺人事件に使われる可能性のある日本刀がなぜ公然と売られているのか、果たしてそれが法的に問題はないのだろうかという点であった。テレビのコメンテーターの一人は、そんな反社会勢力が持つような凶器を神職にあった者が所持するとは(何たることか)、という意味の発言をしていた。刀剣の有用性、つまり歴史的・文化的価値、技術・美術性・芸術性などには一切無知で、違法武器である拳銃など同一視した発言は、テレビのコメンテーターとしては無能かつ不適格であろうと言わざるを得ない。

報道各社の取材要請に対して筆者は、このような事件が起こって誠に残念であり、刀を扱うわれわれは今まで以上に慎重な商売を心掛けなければならないが、刀はこれからも売れ続けるし、刀の優れている点を今まで以上に強調していきたいと答えた。

ちょうど取材を受けていた同時期に、自転車に乗った人が轢き逃げされ、死亡するという事件が報道された。そこで、あなた方はなぜ轢き逃げするような人に車を売るのか、お金を持って買ってくる人には誰にでも車を売るのか、という論調で報道しますか、と逆に質問した。さらに殺人事件の凶器が包丁だったら、包丁が無制限に売られているという現実を報道するのか、あるいは電動アシスト自転車による事故が起きれば、その自転車の販売を規制すべきだという報道を展開しますか、とも問うてみた。

どのような社会性・有用性のあるものでも、持ち手によって反社会的なものにもなり得るということではないでしょうか、と話を進めたところ、刀のみを偏って取り上げると、車や包丁のように、用い方によって殺人の道具となり得る全てのものと並行して話を進めていかなければ、偏向報道にもなりかねないことにディレクター氏は気付いたようで、筆者の話を放映しても興味本位の視聴者が食いつくニュースとしての価値はないと判断したのか、刃長の長い刀の撮影と短いコメントがオンエアされたのみで、取材は失敗に終わったようであった。

しかし、刀が殺傷の凶器となったことは否めない事実であり、刀剣関係者は一様に今後を懸念したものである。この事件は警視庁捜査第一課の殺人犯捜査係が深川署に捜査本部を設けて捜査していたが、容疑者は既に死亡、刀剣の入手経路も判明し、犯罪捜査という点からは終着も近いと思われる。しかし、マスコミのいい加減な報道によって刀のイメージが極端に貶められ、世の中に刀の印象のみを増加せしめたのは遺憾であり、今後の報道に猛省を促したものである。報道に対する疑問点は大きく二つある。

一つは、刃長は八〇センチというのは誤りで、刃長は七四・四センチである。七四・四センチは二尺四寸五分で、現代刀としては普通か、やや長めの寸法である。よく確かめもしないで、ことさらに長大で恐ろしい武器であるかの如くの報道であった。

二つ目は、三人の死因についてである。テレビや新聞が報じる襲撃の見取り図や行動は、外出先から帰宅した被害者を車から引きずり出し、日本刀で切り付けて殺害に及んだ、と。あたかも道路上で

の刃傷は通行人をも巻き込みかねなかったとのニュアンスを含めて、筆者が現地を検証した限りでは、襲撃場所は路上ではなく、車を降りた被害者が、建物横の通用門の鍵を開け、中に入って玄関口に差しかかったところを襲われたものである。道路の突き当たりにある通用門に被害者を降ろした運転手は、行き止まりの道をバックして進路変更をしようとしたところを止められ、容疑者の妻に刃渡り四六センチの脇指で切り付けられたと思われ、素手の運転手は車を降りて走って逃げるしかなかったのだらう。心得もない女性が脇指を振り回して男性に深傷を負わせられるはずもなく、衣服の上から腕を切り付けたのみで終わっている。

通用門から数メートルほど中に入った正面玄関入りで、被害者は刀で切りかかれ、振り回した刀が体や腕に当たって瀕死の重傷を負ったのであろうが、玄関口は立ち回りには狭く、しかも上下左右門柱に至るまですべて石造りで、刀はそこどこかに空振りして当たったのであろう。真ん中から折れている。

従って致命傷は、マスコミ報道による刀ではなく、現場に血がついて残されていたサバイバルナイフであろう。折れた刀では被害者や自分の妻を刺すこともできず、また、自らを刃することも適わなかったはずである。運転手を襲った脇指は、先端部分に細かい刃こぼれがあり、腕を切り付けた際の血痕が切先の部分に残っているものの、それ以上深い部分にはない。また、折れた刀は先端から物打ち部分には血痕があるが、折れた下部にはなく、刀も脇指も最後の場面では使用されなかったことがわかる。通用門の外で殺傷に及んだというマスコミの報道が誤りであることは、死者に手向けられた花が、三束とも玄関先に置いてある

ことでも知られるのである。このように、マスコミは世間の興味を否が応でも増加させるために、日本刀という言葉や文字を多用しているのである。いずれ事件の真相は明らかにされるであろうが、マスコミの報道は垂れ流しで修正などはなく、刀剣に対する非礼もそのままであろう。

狂気の沙汰の今回の事件については、容疑者は刀剣の愛好家でも収集家でもなく、自分の目的を遂げるために凶器として刀を選んだというだけで、犯行を計画した九月に購入したことがわかっている。ちなみに、刀は平成五年愛知県登録の現代刀の拵入りで、脇指も同じく現代刀の拵入りで平成二十一年の千葉県登録である。所有者変更届の順を追って購入経路が明らかになったものであるが、登録証のある刀であるからこそ解明できたのであり、致命の凶器となったサバイバルナイフなどの入手経路はおそらく不明であろう。

刀剣を愛する者は、このような事件は起こさない。われわれは刀剣を愛する方々にのみ刀を売るのである。富賀岡八幡宮には今後参詣客が減ることが予測されているが、神社に何の過失があるというのであろうか。轢き逃げ死亡事故を起こした車自体にも無論何も罪はなく、車の販売店も同様である。人が行った行為をモノのせいにしてはならない。罪は人が負うものである。左行秀が誇った富賀岡八幡宮が再び世の崇拜を集める日が遠からんことを祈るとともに、わが刀剣社会にも誤解のない世間の認知の日が訪れることを願わずにはいられない。

NEWS & TOPICS

上越市が「山鳥毛」の購入を断念

新潟県上越市は、購入を目指していた上杉謙信の愛刀で国宝の太刀「山鳥毛」について十一月二十一日会見を開き、購入を断念したことを発表した。また上越市教育委員会では十二月二十三日、同市春日山町の春日謙信交流館で市民説明会を開催し、理解を求めた。同教育委員会では来年夏にリニューアルオープンする総合博物館に展示しようと、岡山県の個人が所有する「山鳥毛」を購入するため、専門家による評価額三億二千万円を上限に交渉を進めてきたが、所有者が最終的に求めてきた金額は評価額を大きく上回るもので、折り合いがつかなかったという。交渉を始めた二十七年九月、所有者から最初に提示された金額は十億円。その後、専門家による鑑定で「山鳥毛」が三億二千万円と評価されたことを受け、一昨年六月、所有者に評価額を伝えた。同じ六月、所有者は予定対価が三億二千万円、譲る相手を下越市とする申し出を文化庁に提出した。

また翌月に、上越市側は所有者と会い、購入金額は評価額以内であること、購入の予算は市議会での二回の議決が必要であることを伝えていた。このとき、所有者から金額に対しては「きり」と理解を示す言葉はなかったが、否定的な話もなく、教育委員会では契約できると考えていたという。

しかし、昨年三月以降、所有者から契約金額の変更を希望するメールが数回にわたり届いた。さらに五月に所有者と面会した際には、三億二千万円では契約できないという意思が表示された。引き続き面会を希望するも断られ続け、十一月八日ようやく六回目目の面会を果たしたが、冒頭に「縁がなかった。終わりにしたい」と告げられた。所有者は上乗せした金額を希望して、手取りで五億円を提示したという。

「山鳥毛」の購入に向けては、募金やふるさと納税を通じ、無記名も含め約七千三百五十万円が寄せられている。また、市内ではグッズ第一号の「山鳥毛タオル」が発売されたほか、飲食店に「山鳥毛そば」「山鳥毛せんべい」などのメニューが登場するなど、話題になっていった。このショックはしばらく尾を引きそうだ。



市民の期待は高まっていたのだが…

組合こよみ (平成29年11~12月)

- 11月1日 銀座刀剣倶楽部会場において『刀剣界』第38号編集委員会を開催(再校)。出席者、清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・大平理事・木村理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・深海相談役・土子氏
- 8日 清水理事長・服部副理事長・嶋田専務理事が産経新聞社を訪問、編集室岡根氏と『ジャパン・ホワード』(世界に発信するインターネット組合)について会議
- 13日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加35名、出来高9,960,000円
- 13日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第39号編集委員会を開催(企画)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・赤狄監事・土子氏
- 15日 「大刀剣市」重文室展示品借り入れのため、清水理事長・嶋田専務理事が内閣官房室を、服部副理事長が日本美術刀剣保存協会を訪問
- 17~19日 東京美術倶楽部において「大刀剣市」を開催。来場者初日1,134名、2日目950名、3日目894名
- 20日 首相官邸より借用した太刀・拵の研ぎ直し、白鞘製作のため輪師水野美行氏に預託(清水理事長担当)
- 12月16日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第39号編集委員会を開催(初校)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・赤狄監事・土子氏
- 17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加46名、出来高7,952,000円
- 17日 東京美術倶楽部において第6回理事会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・赤狄監事・土子氏
- 17日 芝パークホテルにおいて「大刀剣市」慰労会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・大平理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・赤狄監事・土子氏
- 21日 嶋田専務理事・網取常務理事・瀬下理事が産経新聞社を訪問、「明美ちゃん基金」に25万円を寄託

ブック・レビュー BOOK REVIEW

虎徹の行き方を歴史的事件に絡めて巧みに描く

『半百の白刃―虎徹と鬼姫』上

長辻象平 講談社文庫 上七二円・下七五六円(税込)

本書は、言わずもがなの著者刀工長曾祢興里入道虎徹を描いた小説である。虎徹を主人公とした文学では山本兼一の『いっしん虎徹』

などが知られているが、本書は折々の歴史的事実を織り交ぜながら、後者とはまた異なる興味津々のフィクションを構成している。

明暦の大火の後、日本橋

の刀屋に長曾祢興里が無骨な刀を持って現れた。そこで不可思議な女性邦香に出会うところから物語が始まる。邦香は旗本にして斬試役の鶴飼家の娘で、鬼姫と呼ばれていた。

越前で甲冑師であったという興里の鍛えた刀に魅せられた鬼姫は、自ら死体を斬断して確かめる。無類の斬れ味がやがて評判を呼び、鬼姫や刀屋の幸助の助けもあり、興里は不忍池のほとりで刀鍛冶として名を馳せていく。

一方、興里らは慶安事件



（由井正雪の乱）にまつわる軍資金騒動や伊達家の御家騒動に巻き込まれてしまう。また、興里が吉原の花魁勝山に突然招かれるという珍事も起きる。

しかし、どういった状況においても作刀に没頭し、常に自らを高めようとする刀工の求道的な姿を、著者は絶妙に描く。

虎徹銘に改めることや銘文の変遷についても巧みに表現している(事実かどうかは別として)。虎徹の人となりも十分に表現し、示唆に富んだ言葉もちらりめられている。とにかく読んで面白。

作者の長辻象平は『産経新聞』論説委員、魚類生態学に造詣が深い科学ジャーナリストでもある。著書多数。

『忠臣蔵約客伝』には妖刀村正も取り上げられているが、これらから現役新聞記者中、最も刀に詳しいとの評判しきりである。(赤荻稔)

NEWS & TOPICS

刀文協のコンクール 開催日程決まる

公益財団法人日本刀文化振興協会(本阿彌光洲理事長)では、平成三十年度の公益目的事業として、長野県坂城町ならびに坂城町鉄の展示館との共催により、「日本刀の匠たち・第九回新作日本刀研磨外装刀職技術展覧会」を開催します。

なお、今回も、作刀・刀身彫刻/研磨/刀装の三部門のほかに、特別公開部門として、Sword Oshigata Arts 部門を設け、応募方法・開催要領など詳細については決まり次第公表します。

会期：五月二十六日(土)〜八月二十六日(日)。授賞式は五月二十六日(土)

会場：坂城町鉄の展示館 〒389-0660

1 長野県埴科郡坂城町坂城六三三二二

☎〇二六八八二二二二八

作品受付：四月十二日(木)〜十四日(土)

高崎高島屋 5Fアートギャラリー

〒370-0052 群馬県高崎市旭町45 ☎027-330-3956 (直通)

https://www.takashimaya.co.jp/takasaki/

宮入小左衛門行平作刀展

(公財)日本刀文化振興協会専務理事・全日本刀匠会副会長を務めるほか、各方面で活躍する宮入小左衛門行平刀匠が高崎高島屋で作品展を開催する。以前から高崎の地には縁があり、ここでの個展は3年前に続き2回目となる。卓越した伝統技術が生み出す最新作を展示販売する。

昭和32年、後の人間国宝・宮入昭平を父に生まれた宮入刀匠はその父と同様、後継者の育成にも熱心であるが、活躍している一門の川崎晶平(埼玉)・河内一平(長野)・根津秀平(長野)・上山輝平(岡山)の作品も出品予定。

会期：1月30日(火)〜2月6日(火)午前10時〜午後7時。最終日は午後2時閉場。3日午後2時からギャラリートークを開催



朱華堂の店頭で滝沢新一さん(右)と

今日の俺の行く先は八王子市台町。当組合員の滝沢新一氏の朱華堂を訪ねる。八王子市民であれば、朱華堂のある富士森公園の交差点は市民体育館、陸上競技場、女子バレーボールの名門の八王子実践高校があり、なおかつ晴れた日には坂の上ゆえに富士山がきれいに見える、誰もが知る。

そんな立地に建つ朱華堂は、横長の店舗に和洋の骨董が所狭しと飾られ、いわばカオスのよう。滝沢氏の静かな人当たりからは意外な印象を抱く。しかし俺が若いころ、このスタイルの古美術店を冷やかすのが好きで、自分の思い描いていた古美術店の原風景でもあり、いわゆる掘り出し物というやつだ。静かな滝沢氏をさりげなく奥様さまアシストするコンビぶりも良いぞ。

先駆けて訪ねていたのは武州八王子刀剣会。この交差点の一本裏の台町二丁目会館で、中央線沿線の愛刀家が持ち寄り鑑賞会を開いているが、朱華堂はこれの事務局を兼ねる。第五日曜日、参加費千五百円で軽食付き・興味のある方は問い合わせてほしい。

さて、今日一番の収穫と言える氏の言葉。「平日の昼間にしか刀剣の買い取りは行わない」これだ。滝沢

健脚商売 16 ショータイム 八王子市台町編



松竹梅と言え、縁起物で慶事・吉祥のシンボルとして、お祝い事に使われるものですが、お正月用の盆栽にもよく用いられます。

お正月用の盆栽づくり 大平 昌子

私はここ十五年ほど、毎年十二月初旬中旬に、このお正月用の盆栽づくりを行い楽しんでます。まず、盆栽用の梅・松竹(笹)・南天・小菊・苔・化粧砂(白砂)などを準備します。そして、これらを一つの鉢に寄せ植えします。お正月用の盆栽は梅が一番大きく、松は小さく、竹は小径を使用します。これらをどのように配置するのが一番良いかを考え、何とか一つの鉢に収めるのです。最後に、陸を見立てて苔を、水を見立てて化粧砂を敷き、鶴の置物などをセットします。

年末までは屋外に置き、お正月になってから暖かい室内に移動させます。そうすると、梅の蕾がどんどん咲き出し、お正月に梅の花を楽しむことができます。花が散った後は、また屋外に出し、しばらくしたらそれぞれを別々の鉢に植え替えて育て、来年に備えます。緑はやはり心を和ませてくれるものですね。

刀剣・小道具・甲冑武具 飯田高遠堂 代表取締役 飯田 慶雄 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33 TEL 03-3951-3312 FAX 03-3951-3615 http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本 松本 富夫 義行 〒278-0043 千葉県野田市清水199-1 TEL 04-7122-1122 FAX 04-7122-1950 www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・小道具・甲冑 日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD. (株) 日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1 TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階 ㈱銀座泰文堂 代表 川島 貴敏 TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367 http://www.taibundo.com

刀剣 高吉 古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください! 連絡先 090-8845-2222 代表者 高吉 吉童 東京都北区滝野川7-16-6 TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116 www.premi.co.jp

『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に3号分を無料でお送りしています。組合員・賛助会員以外の方で購読を希望される方は、お名前・送付先・電話・メールアドレス(あれば)を書面でお知らせください。また、お知り合いで刀剣に興味のある方がいましたら、教えてあげてください。(事務局)

NEWS & TOPICS

日刀保「刀剣研磨・外装技術発表会」授賞式開催される

公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)は十二月一日、第七十回「刀剣研磨・外装技術発表会」の授賞式を開催し、下記の入賞者を表彰した。



特賞を受賞した皆さん(撮影/トム岸田)

◎研磨・鎗造の部

- 【木屋賞】 神山貴恵
- 【竹屋賞】 菊池真修
- 【千葉賞】 真津仁彰
- 【蕪山賞】 各務弦太
- 【寒山賞】 松村壮太郎
- 【日本美術刀剣保存協会会長賞】 横山智庸・倉田竜太郎

◎白鞘の部

- 【優秀賞】 塚本剛之・永洞修
- 【努力賞】 河合広明・大槻良一

◎刀装の部

- 【優秀賞】 久保謙太郎
- 【努力賞】 伊藤俊克

◎柄前の部

- 【日本美術刀剣保存協会会長賞】 久保謙太郎・橋本幸律
- 【優秀賞】 久保純一
- 【努力賞】 出口智之・奥原勁士

◎白銀の部

- 【優秀賞】 宮本恒之・三島幹則
- 【努力賞】 野口裕弘・中村晋也

靖国神社の新春奉納実演に参加して

橋本瑠巴

靖国神社で奉納実演を始めてから二十年以上になります。研師の藤代興里先生、鞘師の水野美行先生、それに刀身彫刻師の私と、三人のチームでした。藤代龍哉さんは未成年でした。

最初は一九九七年一月三日、遊就館旧館の二階の奥の部屋が会場でした。重い荷物を持って階段を上り、作業台を準備したものです。



お客さまに仕事を体験してもらうことも

亡き藤代松雄先生(研師・重要無形文化財保持者)がしばしば来られて、髪を持って銘切りなどして楽しんでくださいました。私も懐かしい思い出です。

藤代先生と水野先生はお住まいが靖国神社の至近で、代々刀剣の仕事に関わっておられる家柄ですが、もともと刀剣とは無関係で埼玉県住民の私かな。

一緒させていたただくようになったのか、二十年以上も前のことなので覚えていません。二〇〇

「わが道」を顧みて

トレジャー・ハンティング Treasure hunting

安東 孝恭

「宝探し」にはマイナーな欲深いイメージがある。とはいえ、有史以来継続されてきた、最も古い職業の一つと言える。

現実には実行するに当たり、必要な資料の乏しさや状況把握の難しさ、妨害などもあって、中途で消滅したケースは多分にあったと推測される。トレジャー・ハントとされてきたのは、古今東西の文明・文化の為政者たちのステイタス・シンボルである財宝・財産、その中で金のチゲット、インゴット、その装飾品は酸化されないし、不変であるから貨幣として利用されてきた遺産・遺物である。工匠による美術工芸品類などもターゲットとされた。

海洋のカリブ海地帯のハリケン、東南アジア地帯・日本沿岸の台風による交易船の難波、戦争による撃沈された船舶などが大きな標的であった。

特筆に値することは、太平洋戦争でわが国の商船沈没数は一九四一年から四五年の五年間で約6900艘、海軍艦船は625艘が撃沈されたことある(NHK資料)。

終戦直後の復興期当時は、米空軍による爆撃で製鉄所が壊滅されたために、鉄製品の需要を賄うには、搜索サルベージ業が沈没船の解体で、諸外国も大いに利用できた例である。陸地の例では、エジプト、サハラ砂漠のツタンカーメン、ファラオ王墓の遺跡発掘調査・収集・修復・研究など多くが発掘された。モンゴル

ゴビ砂漠はシルクロードの拠点であり、恐竜化石の宝庫でもある。中南米地帯、マヤ文明のメキシコ、インカ文明のペルーなど、遺構・遺物・遺産など発掘調査・収集・修復・研究を行動を共にしたトレジャー・ハンターたちが遺物、遺産を販売することを業務にしている。

わが国は一九四五年八月十四日にポツダム宣言を受諾し、初めて悲惨な略奪経歴を余儀なくされた。この時期に日本刀は、占領軍によって戦利品として持ち帰られた。アメリカ諜報機関によるアーカイブズでは少なくとも60・70万振が被害に遭ったとの記録がある。

結果として、数十年間を経て、特に日米の刀剣商により、アメリカでマーケットが完成された。その後、日米はもとよりヨーロッパ圏の刀剣商までが、日本刀を対象とするトレジャー・ハンティングを享受することとなる。

刀剣の歴史を顧みると、十代崇神天皇により倭国が平定された。御帝祚式典には三種の神器として宝剣が皇位継承に不可欠となる。護国安泰天下泰平、五穀豊穡を願う神権を司った。

天皇を頂点として将軍・大名・豪族その他の著名な人物の所有であったり、注文作であることで刀剣の付加価値が高められ、通常外である高

額な値段が格付けされることとなる。名刀匠の心・技・体が統合された時にこそ、名刀は誕生する。その数は十年に一振ないし二振、生涯の作刀期間を平均五十年と仮定すると、五十振振が最上の上と認められる。スーパー・ベスト(superb best)で五振前後がその刀匠の日本一と言える。岡山で繊維産業の事業家、収集家であった岡野太郎松氏は、日本一と認められた備前・備中の太刀・刀には当時の通常値段の三倍を支払ったと聞く。それは、岡山県が日本の繊維産業の70%強のシェアを占め、かつ、戦後復興期に主力産業として大いに外資を稼いだ時期であった。

トレジャー・ハンティングの意味と解釈は二つの分野に区別できる。A、狭義的・個人業務であったり、少数での探検・探索であり、生業として生計を立てるために失敗は不可抗力として許容される。

B、広義的・学術調査・収集・修復・研究・展示である。当然ながら販売も行われるが、人材と規模も多大となり、時に国家間・政府間交渉に關与してきた。それゆえに、費用対効果は不可避な条件である。

AとBを総括して相方の領域を包含する意味合いである。刀剣商を業務とされる方々が、これを自分の天職(Vocation)とし、責務を果たし、到達することで莫利に尽きると思えるならば、トレジャー・ハンターの成功者と言える。

私がアメリカ四年間の滞在で修得したことは、キリスト教による教化と思考であり、同時に強い先進国A

メリカの見聞であった(一九六四〜六八)。刀剣業界に入って約五十年になるが、浮き沈みを重ねる経験がプロローグの始まりである。一、太陽からの資源

アオバ企画(株)

高橋 一

T130-0012
墨田区大平四一九二一三〇八
TEL 〇三三六二二二二三
FAX 〇三三六二二二二五
メール aobakk@pb8.so-net.ne.jp

伊波徳男様

当組合元相談役、伊波徳男様には、平成二十九年十一月一日逝去されました。享年九十一。葬儀は故人・家族の意思により密葬にて執り行われました。なお、弔問・御供物はご辞退されており、くれぐれもご配慮をお願いいたします。このことです。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。連絡先 株式会社日本刀剣・伊波賢一(姪孫) 〇三三四三四三二二

お知らせ

組合員の入会手続きが改定になりました。入会希望者は理事二名の紹介者の記名がある申請書を提出し、客員としての承認後六カ月間、組合活動に賛助することとします。その場合、二回以上組合交換会への出席を要します。市場における客員の取引は当日現金払いとし、紹介者が保証することとします。その後、四月もしくは十月の理事会における承認決議を経て、組合員となります。なお、従来の組合員に資格内容の変更はありません。

米野純夫様

組合員の米野純夫様には、病氣療養されておりましたが、投薬の甲斐なく十二月十四日に逝去されました。享年九十一。通夜・告別式はご家族にて執り行われました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。なお、今後は弟の幸夫様が後継され、組合員として在籍いただきます。

一位 中国 450トン
二位 オーストラリア 278トン
三位 ロシア 252トン
四位 アメリカ 214トン
五位 カナダ 153トン
ちなみに日本は、8トン弱で四十一位である。

刀 剣 界

刀剣の故地を往く

熊本県阿蘇市一の宮町宮地

阿蘇神社の由来と消えた二振の国宝

「螢丸」は今いずこに

平成二十八年四月に発生した熊本地震で、当地は甚大な被害を被り、組合の皆さまからは温かい激励のお言葉とともにたくさん義援金が寄せられました。

阿蘇神社の復旧支援に向けて浄財を寄付いただきましたことは、新聞各紙にも大きく取り上げられました。地元市民はもとより、これを知った県民は、こぞ感謝しており、近隣住民の一人としてあらためてお礼申し上げます。

日本三大楼門の一つとされる高さ十八メートルの楼門など、阿蘇神社の六棟の重要文化財建造物は、いずれも倒壊や大きく傾く被害を受けました。文化庁なども協議し、総事業費九億三千万円のうち、神社の負担は五割の約五千万円と、二〇二二年度中の修復完了を目指しています。

全壊した楼門は解体し、可能な限り再利用し、文化的価値を損なわない範囲で耐震補強を施すことになっています。

三つの神殿その他は比較的被害が軽く、早めの復旧が望めます。しかし、全壊した拝殿は指定文化財ではなく、阿蘇神社は宗教学者のため、国や県からの補助金も阿蘇市に届けられた義援金も頂くことができません。八億円にも上る工事費用全額を神社負担で用意しなくてはならず、当社への直接の寄付金・義援金に頼らざるを得ない現状ですが、阿蘇神



被災前の阿蘇神社楼門

社・地域住民力を合わせて頑張っています。

阿蘇は古代の国であり、阿蘇を開拓された健甕龍命が阿蘇家の祖とされ、神武天皇七十六年(紀元前五八五年)二月、鎮西鎮護の勅命により山城国宇治から下向され、開拓に従事された社記にあります。

阿蘇神社の創建は孝靈天皇九年(紀元前二八二年)と伝えられ、約二千三百年の歴史を有することになります。肥後国一の宮、旧宮幣太社、健甕龍命を主神に十二の神々が祀られ、末社は全国五百社を超えます。

一方、研究者の間では健甕龍命は自然神で、それは阿蘇火山の神であり、神霊池を指し、ひいては噴火口を指し示しているとも言われます。古代にあっては自然は脅威で、従って自然の怒りを鎮めることは支配者の大きな務めでした。すなわち阿蘇家は、自然神阿蘇山を祀る司祭者として発祥したというのです。

阿蘇家は一貫して、祭祀を司ることを主たる職として続いてきました。中央からも国家鎮護の司祭者として次第に認められ、国造となり、さらに総管となって、祭政二権を握る肥後の大豪族に雄飛したのです。

そして、いつからともなく神主は五位の奏授のために都に上るのを例とするようになり、阿蘇の神威は大宮司の名譽とともに天下に聞こえるようになりました。

「四海波静かにて……」と語られる謡曲の「高砂」は、こうした阿蘇大宮司友成の都上りの一齣を取り扱ったものです。

下って源平時代になると、軍事面にも活躍するようになります。南北朝時代には、両勢力から誘われ、一

族が二つに分かれて対立抗争するということもありました。

後には島津氏に攻められ、また豊臣秀吉の怒りを買って、家領はもとよりの神領までも没収されるという悲運にも遭遇しました。

その阿蘇家の復活を助けたのは加藤清正でした。清正は徳川幕府に請うて、そのころ阿蘇の山中に隠れていた阿蘇惟善を阿蘇大宮司の職に就け、神領一千石を与えてやったのです。同時に、長く荒廃していた阿蘇神社の宮繕にも力を尽くしました。

その結果、旧例古式が蘇り、一時兵乱で散っていた社家たちも阿蘇家の下に参集し、阿蘇大宮司家は肥後国の神職を支配し、肥後一の宮としての威厳を保つこととなったのでした。

阿蘇神社とともに幾多の過酷な歴史をくぐり、なお家職を守って今日ある阿蘇家は、九十二代続くわが国屈指の旧家・名族であり、生きながらの重要文化財と称してもいいのではないのでしょうか。

建武三年(一一三三)三月、阿蘇惟直・惟成・惟澄の三兄弟は菊池一族とともに南朝方につき、筑前国多良浜において足利尊氏軍と戦いました。壮絶な戦闘の中で二人の兄弟は戦死しましたが、惟澄は何とか逃げ延びることができました。その佩刀が「螢丸」の太刀

でした。ボロボロに刃こぼれし、折れ曲がった刀身を半分ほど元の鞘に差し込み、床の間に立てかけて眠りについたところ、無数のホタルが飛び来り、太刀に止まった夢を見ました。翌朝、惟澄が目覚めると、太刀は鞘にきれいに収まり、刃こぼれもすっかり消えていたと言います。

「螢丸」は一采国俊/永仁五年三月一日(在銘、刃長三尺三寸四分五厘、表に棒樋と連れ樋掻き流し、文字と護摩箸、裏に棒樋と連れ樋、平地に素剣を彫る。旧国宝。

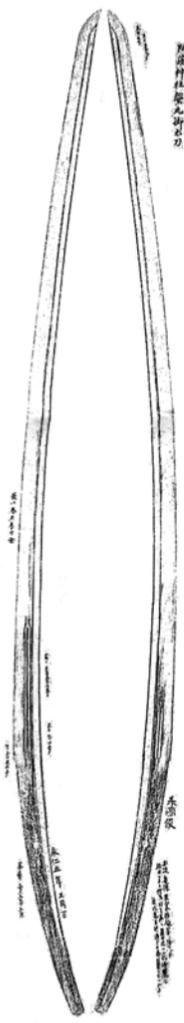
この太刀は昭和二十年十二月四日、連合国軍最高司令官総司令部の民間武器回収命令により、地元の宮地警察署に提出されました。「国宝は検査があるだけで、すぐ返すから」ということでしたが、同月二十一日ないし二十二日、当時熊本城内にあった進駐軍の倉庫に運び込まれた後、行方不明になりました。

終戦の翌年、台湾から復員した阿蘇惟友宮司はこの事態を憂い、八方手を尽くし探索されましたが、所在を突き止めることができず、昭和六十二年に亡くなられました。



長光太刀と九曜鶴丸紋散糸巻太刀拵

牡丹造短刀拵



戦前に採られていた「螢丸」の押形

嫡男の先代宮司阿蘇惟之氏も遺志を継いで探されましたが、たどり着くことはできませんでした。

なお、阿蘇神社では「螢丸」と同時に同じ旧国宝二点も被害に遭っています。

その一つは細川忠利公が初代城主として肥後に封じられた際、阿蘇神社に敬意を表して奉納した長光在銘の太刀で刃長二尺二寸二分、九曜鶴丸紋散糸巻太刀拵が付されている。もう一点は、菊池武光公より奉納された牡丹造短刀拵で、総長一尺五寸七分、刀身の刃長は八寸八分。この拵については、米国で実際に見たという複数の証言がある。

寄稿 日本刀の「真価」について再考する

川島貴敏

刀剣を商い始めて四十年ほどになるが、私が刀剣商になった一九七〇年代はまたチャンバラや時代劇、軍刀など、日本刀の存在は一般の人々に「武器」として身近に感じられるものであったと記憶している。そのため、当初は私自身も、日本刀は武器ではなく美術品であることを強調するために、「鉄の芸術」「日本刀」などという新聞広告を打ったことを思い出す。それが近ごろでは「日本刀」美術品という図式が、刀剣協会や組合員の皆さまの努力により定着し、「刀剣乱舞」のようなオンラインゲームの登場も後押しして、これまでになく女性を含めた新規の愛好家も増え始めている。

この業界では周知されていることだが、日本刀は、魔刀令の出力される明治以前においては当然武器であり、千年以上前から公家・武家の一番の表道具として大切にされ、現代に伝えられてきている。千年以上前から原形をほとんど変えずに保存され、使用され、現代まで伝えられているものは、世界中でも、剣やサーベルといった武器では全く類を見ない。

現在、国宝に指定されているもののうち、美術工芸品(工芸品)の分野において刀剣類だけで約半数に上り、建築物などを含む全ての国宝指定点数の約一割を占める。加えて、現存する陶器、絵画などの美術工芸品は時代が古いものは

社に敬意を表して奉納した長光在銘の太刀で刃長二尺二寸二分、九曜鶴丸紋散糸巻太刀拵が付されている。もう一点は、菊池武光公より奉納された牡丹造短刀拵で、総長一尺五寸七分、刀身の刃長は八寸八分。この拵については、米国で実際に見たという複数の証言がある。

損傷が大きく、保存状態の良いものは室町時代以降に制作されたものも比較的多いのに対し、平安・鎌倉・南北朝・室町と時代を経、作られた当時の姿を保ちながら現在まで伝わってきた美術品としても、日本刀は希有な存在である。そうしてみると、日本刀は確かに日本を代表する美術品であることは間違いない。が、果たして武器であり、かつ美術品であるということだけで日本刀を評価してよいものだろうか。

ご存じの通り、戦国時代に火縄銃が日本に伝来したことで戦闘様式が大きく変化し、集団戦の中では、日本刀の武器としての実用性が著しく低下したことは江戸時代の兵法書にも記されている。それではなぜ、戦乱の世が終わった江戸という平和の時代にあっても、武士は常時帯刀していたのか。ただ、武士が武士たることを誇示するためだけではなかったのではなか。江戸時代が幕を閉じ、明治・大正・昭和の新たな時代に入ると、ますます日本刀の武器としての実用性は乏しくなった。それでもなお、旧日本軍の部下を指揮するすべての者(曹長以上)には、軍刀の常時着用が義務づけられていたのである。

当時、日本以外の軍隊で、サーベルや剣を戦場で常時帯刀させた国は他にない。日本の軍刀の標準的なものは、鞘も鉄製で、刀身の

これらの社宝が発見され、再建される阿蘇神社に里帰りすることができれば、神社関係者・阿蘇市民はもとより、三振の旧国宝にとっても本懐であろうと思えます。

どうか発見にご協力願えますようお願いいたします。

(阿蘇市在住・笹原俊和)

私がまだ刀剣商になって間もないころ、来店された一人のお客さまが非常に興味深いことをおっしゃったのを今も鮮明に覚えている。その方は南方戦線の経験者で、老齢ながら軍刀を今も大事にしているのだと語ってくれた。「軍刀には大変にお世話になった」という口ぶりから、相当の武勇伝があるものと思いきや、彼は刀を抜くことはほとんどなかったのだという。どういふことかと尋ねると、戦場で隊として一夜を過ごす時は、敵の襲来を未然に察知するため、必ず徹夜で歩哨(見張り)を立てる。その当番に当たると、数時間というわずかな時間であるにもかかわらず、真っ暗な闇の中で、機関銃を持っていても膝がガクガクするほどの恐怖感に襲われるという。そういう時に軍刀を握り締めると、不思議なことに恐怖心が薄らいでほっとした気分になるといふのだ。曰く、それはまるで「親父とお袋が側にいるような」安心感なのだという。(以下次号)

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。



会主の柴田光隆氏と来会者の皆さん

信秀は明治七十年に加茂に滞在し、当地の青海神社に鏡が二枚残されています。一枚は社宝で六十年に一度のみ公開、もう一枚は宮司さんの個人蔵であるそうです。

イベント・レポート

七十回を迎えた「清磨会」

早くも冬めいて空気が凜と引き締まった十一月十四日は、暮末の名工で「四谷正宗」とうたわれた山浦清磨の命日に当たる。七十回という節目の清磨会が、今年も四谷の宗福寺にて開催されました。出品は清磨が六振、山浦一門では信秀が十四振、正雄らの名品が並びました。

明の所持銘のある太刀(文久二)、無銘清磨に似る刀(文久四)、天鈿女命の彫物のある刀(慶応二)、渡唐天神の彫物のある短刀(慶応二)、同じく渡唐天神の彫物のある刀(慶応三)、「於北越」と刻された横向き不動の彫物のある短刀、新発田藩の御用商人であった白勢家の注文により製作された鯉の滝登りと梅樹の見事な彫物が施された剣(明治八)、田巻家に伝わった鏡(明治九)、長寸の刀(明治九)、二童子の彫物の短刀(明治十)などを参考者の皆さまとともに拝見することができました。

二年に三条に滞在し、三条八幡宮に鏡が残されています。おそろく、兼定は信秀が三条を訪れる風聞を伝え聞いて、加茂の有力者から青海神社に奉納する鏡の製作を依頼され、仕事を完了した後に信秀と入れ違う形で加茂を



佐野美術館「上杉家の名刀と三十五腰」に寄せて
みのお品の刀剣をご紹介いたします。上杉家の刀剣台帳に「昔時徳川ヨリ詮議アリタルヲ以テ穿鑿郷郷ト称ス」と記される「刀無銘郷義弘」。享保名物帳作成の折、徳川家より問い合わせがあったが、見当たらないで通した、との逸話が残されています。「物打ちは桑名郷によく似て皆焼風の二枚帽子、地景・湯走りが盛んな則重風の変化に草んだ地鉄、のたれに丁子を交え小沸が深くついて金筋が盛んに入る刃文、まさに名刀」(当館渡邊館長談)

「橋本琇巴刀身彫刻展」を見て
十月九日十五日に東京・銀座の月光荘で開催された刀身彫刻の橋本琇巴先生の小品展に行ってみました。橋本先生と言えは、知る人ぞ知る方なので、略歴を紹介しておきます。

最後に一つ。やはり埼玉県立博物館で「秩父大菩薩」の彫りがある国宝「謙信景光」短刀を、吉原国家刀匠と二人で行った時に拝見すると、その鍔の表に梵字三文字、裏に九字文が切ってあったので、その通りに模作した。それが二十年ぐらい前のことだろうか。現在の学芸員と話していると、そんなことは全然知らないらしい。それはそう。学芸員は鞘から出して、「秩父大菩薩」の彫りの入った表側を刀掛に置いただけのもの。しかし、小生はその九字文を拝見する機会がありました。埼玉県立博物館(現在は埼玉県立歴史民俗の博物館)で「上杉家の名刀と三十五腰」展を巡回でやっていたので鑑賞しに行ったのですが、特別展とは別に、吉原国家刀匠の「謙信景光」写しが展示してあったのです。それは何と裏側も鑑賞できるようになっており、先生のお言葉通り、九字文が切ってありました。(持田具宏)

江州屋 名品・名刀を販売 店主 小暮 昇一 〒529-1131 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1 TEL 0749-14212736 携帯 090-316217641 http://www.goushuya-nihontou.com

NEWS & TOPICS

佐賀県で現存最古の刀剣書が発見される

佐賀県立図書館が所蔵する県重要文化財「龍造寺家文書」から、国内現存最古とみられる南北朝時代の刀剣書「銘尽(龍造寺本)」が発見された。九州産業大学基礎教育センターの吉原弘道准教授の研究で明らかになり、十二月二十五日に県が公表した。

平安時代末から鎌倉時代ごろの刀工約二百八十人が収録され、代表作や系図などが墨書で記されている。中世における刀剣書の成立過程や刀工の実像を探る貴重な資料となる。

発見された刀剣書「銘尽(龍造寺本)」は、龍造寺家文書にある訴状の下書きに当たる二通(各縦約33センチ、横約95センチ)の「龍造寺家政申状士代」に裏書きされていた。

南北朝時代の観応二年(一三五二)、九州の一大勢力だった足利直冬(なるとあきふゆ)の



「龍造寺家政申状士代」に裏書きされていた国内現存最古とみられる「銘尽(龍造寺本)」提供/佐賀県立図書館

関係者が所持していた刀剣書を借用し、龍造寺家の惣領だった家政が周囲の人物が書き写したものと推定される。当時紙は貴重で、不要となった文書の裏を利用することは珍しくなかった。

言うまでもなく、これまで現存最古とされていたのは、江戸時代後期に発見された、応永三十年(一四二二)年書写の「銘尽(観智院本)」(重要文化財)。以後、約二百年間、観智院本より古い刀剣書は発見されていなかった。龍造寺本の方が、刀工に関する情報などが古かったため、最古の刀剣書と考えられる。

吉原氏は「銘尽(観智院本)」の収録刀工と題して『刀剣美術』最近号にも発表しておられるが、太宰府天満宮文化研究所の研究者として、日本刀の調査や保存に関わった刀剣書の専門家。十年ほど前、写真で龍造寺家文書を見た時、裏に書かれていた刀の名前を偶然、見つけた。全国の中世刀剣書を網羅的に調査し比較することで、今回の内容が明らかになった。「南北朝時代、刀工の銘鑑のようなものを地方の武士が見せてもらって写したという文化的な交流があったことがわかったのも貴重な発見」と語っている。

文書は、佐賀県立博物館で十二月二十六日から二月四日まで、記述のある刀工の在銘刀とともに展示されている。入場無料。

また、詳細は日本古文書学会編『古文書研究』八十四号(勉誠出版)に公表される。

「鉄の技術と歴史」研究フォーラム
設立20周年記念講演会
鉄の技術と歴史研究の20年—回顧と展望—

「鉄の技術と歴史」研究フォーラムは、日本古来の製鉄法、特に砂鉄を原料とする製鉄法と、そこから生産される和鉄・和鋼・和鉄の加工法の技術と歴史を科学的にかつ学際的に研究し、学問的解明を図るとともに、一層の発展と新たな鉄鋼技術のシーズの探求を目指し、講演会・シンポジウム・公開発表会・研究会などの諸活動を展開してきました。

平成9年発足から20年を迎えるに当たり、本フォーラム元座長を含め、考古・歴史・民俗および製錬・精錬などの専門家を講師に迎え、これまでを振り返るとともに、将来を見据えた記念講演会を下記のとおり開催します。多数のご参加をお待ちしております。

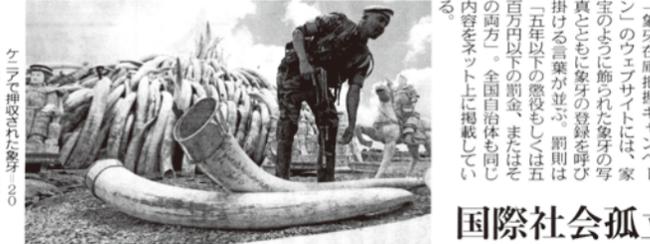
日時：2月3日(土)10:00~16:55
会場：東京工業大学 大岡山キャンパス レクチャーシアター(西5号館3F)
目黒区大岡山2-12-1
交通：東急大井町線または目黒線大岡山駅下車
演題・講師：
・「鉄の技術と歴史」研究フォーラムの20年—これまでとこれから— 高橋礼二郎(元東北大学)
・「鉄の技術と歴史」研究フォーラムと鉄の考古学20年 穴澤義功(たたら研究会)
・韓国における砂鉄製錬 角田徳幸(島根県立古代出雲歴史博物館)
・古来砂鉄製錬の技術論—レビューと今後の研究課題— 板谷 宏(元JFEスチール)
・「沸き花」から見たたたら製鉄の冶金理論 永田和宏(元東京工業大学)
・MISSING SWORDS—戦後民間武器回収と略奪された国宝— 土子民夫(刀剣ジャーナリスト)
・自動車用薄鋼板の技術革新とその社会背景 黒田光太郎(九州産業大学)
参加費：講演会2,000円、懇親会3,000円
参加申込方法：氏名・連絡先を明記の上、下記まで
申込・連絡先：
〒103-0025 中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館内(一社)日本鉄鋼連盟 標準化センター 古主泰子
☎03-3669-4826
FAX03-3669-0226
E-mail: furunushi@jisf.or.jp

象牙取引「日本に抜け穴」

絶滅の恐れのある野生動物の国際取引を規制するワシントン条約の常設委員会が1日までスイス・ジュネーブで開かれ、象牙取引を巡って日本が批判を浴びた。昨年の締約国会議で各国に象牙の国内市場閉鎖を求める決議が採択されたのを受け、政府は今年「種の保存法」を改正し事業者への規制を強化。だが、象牙が印章や和楽器などにも使われるため「適切に管理された市場」の存続を図る政府の姿勢には、日本国内からも「国際社会の動きに乗り遅れる」との指摘が出ている。(鶴田昭浩)

ワシントン条約委 批判相次ぐ

「取引監視団体が日本の国内市場には抜け穴が多い」と報告している。象牙の貿易を目的として後述しない「ワシントン条約」に違反する象牙の密輸を厳しく取り締まるべきとの声もあがり、日本政府は「種の保存法」を改正し事業者への規制を強化。だが、象牙が印章や和楽器などにも使われるため「適切に管理された市場」の存続を図る政府の姿勢には、日本国内からも「国際社会の動きに乗り遅れる」との指摘が出ている。



「象牙を産出する国は、象牙の密輸を厳しく取り締まるべき」と報告している。象牙の貿易を目的として後述しない「ワシントン条約」に違反する象牙の密輸を厳しく取り締まるべきとの声もあがり、日本政府は「種の保存法」を改正し事業者への規制を強化。だが、象牙が印章や和楽器などにも使われるため「適切に管理された市場」の存続を図る政府の姿勢には、日本国内からも「国際社会の動きに乗り遅れる」との指摘が出ている。

象牙取引規制の経緯

1971~80年	日本は約2672トン輸入
81~89年	約2000トン輸入
90年	条約で国際取引が原則禁止に
99年	特別に認められ約500トン輸入
2009年	特別に認められ約400トン輸入
15年	米中首脳が取引禁止に取り組み方針合意
16年10月	国内市場閉鎖を求める決議
11~16年	日本からの象牙が1000件超、中国製で差止め
17年11月	象牙約777の無許可輸出予備容疑で中国船員逮捕

「伯耆国と日本刀」語る

伯耆国「大山開山」300年祭にちなむ「大山講座(新日本海新聞社、同実行委員会主催、鳥取県社会福祉協議会共催)の第5回は25日、「研師が語る大山と刀剣」と題して米子市の日本海新聞西部本社ホールで開かれ、伯耆国が優れた刀

伯耆国「大山開山」300年祭にちなむ「大山講座(新日本海新聞社、同実行委員会主催、鳥取県社会福祉協議会共催)の第5回は25日、「研師が語る大山と刀剣」と題して米子市の日本海新聞西部本社ホールで開かれ、伯耆国が優れた刀



伯耆国「大山開山」300年祭にちなむ「大山講座(新日本海新聞社、同実行委員会主催、鳥取県社会福祉協議会共催)の第5回は25日、「研師が語る大山と刀剣」と題して米子市の日本海新聞西部本社ホールで開かれ、伯耆国が優れた刀

【東京新聞】平成29年12月4日

【日本海新聞】平成29年11月26日

「鎌倉砂鉄」精製し短刀完

鎌倉高等学校 科学研究会

元日から靖国神社で展示

江戸時代中期に廃れたとされる鎌倉の「たたら製鉄」その謎を研究し続けている県立鎌倉高等学校科学研究会はこのほど、海産で採集した砂鉄を材料とした短刀の制作に成功した。短刀は来年1月1日から靖国神社遊就館の奉納新刀展で展示される予定。

たたら製鉄は木炭の燃焼熱で砂鉄を精製する日本古来の製鉄法。鎌倉中世以降に行われていたが、江戸時代中期以降、急速に衰退したと伝わっている。

同会は2011年から「鎌倉のたたら製鉄」をテーマに研究を開始。鎌倉の砂鉄から鉄を精製する実験を繰り返しながら、衰退の原因解明に取り組み、13年には「鎌倉は沿岸部であるため鉄のカルシウム含有量が多く鉄の密度が低く、山間部のもので押し戻された」との結論を出した。

14年からは質の良い鉄の精製実験に着手。砂鉄の成分分析を進め、改良を行って「鎌倉砂鉄」と記されている。この短刀は1月1日(祝)から13日(土)まで、新刀展が披露される靖国神社遊就館の奉納新刀展で展示される。

今回短刀を作る過程で炭素量の少なさが課題として浮かび上がったという。今後は製鉄段階での炭素量の調整に挑戦する予定だ。金井副部長は「完成して達成感がある」とし、顧問の木浪信之助は「次の段階ではなく重さや磁石などの製鉄状況の再現もしていければ」と話している。



刃渡り25.7cm、重さ180gの短刀



短刀を手にする科学研究会の部員ら

【タウンニュース】鎌倉版 平成29年12月15日

催事情報

■ 刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網 1-12-9 ☎03-6284-1000
https://www.touken.or.jp/

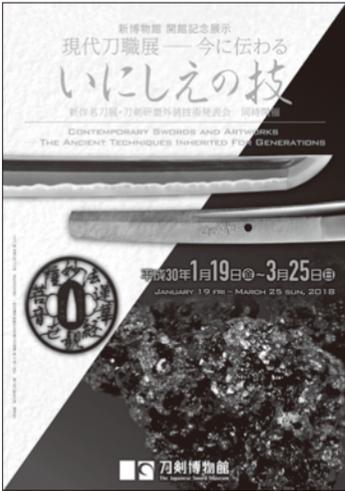
現代刀職展—今に伝わる「いにしへの技」—

公益財団法人日本美術刀剣保存協会は、その使命の一つに現代刀職者の育成と技の公開を挙げています(定款第4条)。その公開事業として、主に現代刀匠を中心とした「新作名刀展」、刀剣を研磨する研師および外装を制作する刀職者のための「刀剣研磨・外装技術発表会」をそれぞれ年1回行ってまいりました。

昨年10月のここ墨田区両国への移転に伴い、両展覧会を合同で行い、全ての刀職者の作品を一堂に展示することで、新たな時代の刻印を清新な気持ちで打ち始めることができると考えました。そこで、本年度より「現代刀職展」として刀職者全体の1年間の成果を俯瞰すべく、両者を合同で展示します。

「新作名刀展」および「刀剣研磨・外装技術発表会」は両者とも本年度で60回を大きく超え、いずれも伝統と格式を備えたコンクールとなっています。この出品作をいくつか分割し、期間中全ての作品を皆さまに披露します。

会期：1月19日(金)～3月25日(日) 月曜休館



■ 熱田神宮宝物館

〒456-0031 愛知県名古屋市熱田区神宮 1-1-1 ☎052-671-4151
https://www.atsutajingu.or.jp/jingu/bunkaden/treasure_guide.html

平成30年新春特別展「日本の聖地～伝世の神社宝物」

日本人は古くより神を尊び、祖先を敬い、神々と共生し、祖先伝来の美風を学ぶことにより、幼いころより家庭や地域、ひいては国に尽くす精神を受け継いでまいりました。普段、老若男女を問わず、誰しもが神社の境内に入る時、何かしら清らかさに心の洗われる様を意識し、神前に立つ時には他の一切を忘れて、一心に神に向かう清々しい心になっていることでありましょう。

神々に対する敬神の念は、古今を通じて一貫して不変であり、全国各地の神社において脈々とその信仰を現在に伝世しています。

本展覧会では、各地に古くより連綿と息づく神社信仰と、それぞれの神様に捧げられた祈りの証しとも言うべき神社ゆかりの宝物を紹介いたします。それを通じ、先人たちの神様への敬虔な祈りの姿を思い浮かべ、神社に対する理解を深めていただく一助とし、日本人としての志をさらに一段と昇華させ、後世に継承していくことを目的に開催します。

本年は、静岡県久能山東照宮・三嶋大社・富士山本宮浅間大社・静岡浅間神社・秋葉山本宮秋葉神社、岐阜県の南宮大社など、著名古社ゆかりの宝物と、当神宮の宝物を併せて展覧します。

会期：1月1日(月)～1月30日(火) 会期中無休



■ 春日大社 国宝殿

〒630-8212 奈良市春日野町160 ☎0742-22-7788
http://www.kasugataisha.or.jp/h_s_tearoom/museum/

春日大社御創建1250年記念展Ⅰ「伝説の名刀たち」

春日大社では国宝8件25点、重要文化財8点、重要美術品7点をはじめ、平安・鎌倉・南北朝時代の美しい太刀の代表作が揃うことで知られています。いずれも神々の神殿や宝庫に秘蔵されて伝えられたもので、摂関家以下の貴族、将軍家以下の武家に相伝され、特別の思いをもって奉納されたものです。本展示では名刀にまつわる伝説にも注目して展示を行います。

併せて、春日大社の御神刀の製作を担う刀工月山家の歴代の名刀のほか、鞍師・白銀師・柄巻師の方々の作品もご紹介します。

会期：12月22日(土)～3月26日(月) 1月29日休館
関連行事：

- ・日本刀講座Ⅰ「作者が語る拵(外装)の美」
1月28日(日)13:00～ 春日大社
- ・日本刀講座Ⅱ「月山日本刀鍛錬道場 公開鍛錬」
3月4日(日)13:00～ 月山日本刀鍛錬道場(桜井市)
※詳細は春日大社 国宝殿まで



■ 徳川ミュージアム

〒310-0921 茨城県水戸市見川 1-1215-1
☎029-241-2721
http://www.tokugawa.gr.jp/

企画展「刀剣プロジェクト成果展Ⅱ」

公益財団法人徳川ミュージアムは2017年2月に設立50周年を迎えました。関東大震災で被災した水戸徳川家伝来の宝刀「太刀見手拍」と「刀燭台切光忠」を現代の名匠が新たに制作する刀剣プロジェクト、その成果をご紹介します「刀剣プロジェクト成果報告展Ⅱ」を開催いたします。

本展では水戸徳川家が守り伝えてきた刀剣を一堂に展示します。

会期：1月6日(土)～4月8日(土) 月曜休館



■ 徳島市立徳島城博物館

〒770-0851 徳島市徳島町城内 1-8
☎088-656-2525

https://www.city.tokushima.tokushima.jp/johaku/

鐵華繚乱—ものゝふの美

春の企画展に続き、徳島城博物館開館25周年記念企画第2弾は、武士の魂といわれる「刀」を中心に武器・武具をテーマに展開します。

東京富士美術館の名品が一同に集結。太刀「銘 有綱(古伯耆)」、太刀「銘 一(福岡一文字)」、太刀「銘 備前國長船住近景」の重要文化財3点をはじめ、刀「無銘 来国真」や刀「折返銘 正恒(古備前)」、長曾祢庸徹などが、ずらり徳島に初上陸いたします。名品を通じて平安時代から江戸時代に至る刀剣の歴史を通覧できる、またとない機会です。

また、島津家伝来とされる「小札紫糸威白糸腰裾取丸具足」や水戸藩10代藩主徳川慶篤の鍛えによる脇指、早乙女家成の手による「鉄錆地六十二間筋笥・三日月前立」など、歴史ファンも必見です。

会期：1月13日(土)～2月12日(月) 月曜休館

関連行事：「活撃 刀剣乱舞」原画展

http://ufotable.com/touken_event/index.html



■ 坂城町鉄の展示館

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2
☎0268-82-1128

http://www.tetsu-museum.info/

人間国宝の息吹～故宮入行平を見つめて～

平成29年に没後40年を迎えた人間国宝・故宮入行平刀匠を、あらためて顕彰します。

本展では、宮入行平刀匠の生きざまに注目します。宮入行平が鍛えた刀をはじめ、宮入コレクションの中から、交友関係や趣味、生き方に関する品々を展示。故宮入行平の人間性に迫る展示内容となります。刀剣類は前期・後期で入れ替えて展示を行います。

後期展：12月26日(火)～2月12日(月) 月曜休館



■ 東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎03-5777-8600(ハローダイヤル)
http://www.tnm.jp/

刀剣鑑賞の歴史

わが国では、刀剣を単なる武器ではなく、鑑賞する対象として扱ってきた長い歴史があります。それは、現在に残る記録などからみると、600年ほどさかのぼります。

その長い時の中で行われてきた刀剣鑑賞においては、刀工の名が銘に切られた刀剣と、銘はないものの、作風を整理した知識によってその刀工の作と見なすことが盛んに行われており、こうしたとき、2口の刀剣はよく似ています。しかし、実際の鑑賞は、そう単純なものだけではありません。例えば、歴史的に高い評価を受けてきた刀剣の中には、銘がないものでも、名が知られている刀工による作品と見なされているものが数多くあります。また、作風が違う刀剣であっても、同じ刀工の作とされているものさえ見受けられます。

日本刀には、作風の整理が高度に進められてきた歴史がある一方で、こうした鑑賞の様相があり、刀剣に関する知識や理屈を超越した美しさも大事であることを教えてくれます。

刀剣の鑑賞は、見どころが抽象的で、その特徴を表現する言葉も日常生活では使わない用語が多く、理解するのが困難です。しかしながら、先人たちは刀剣の美を尊重し、特殊な用語を駆使して理解しようと試みてきました。

この特集を通じて、刀剣鑑賞の歴史から紡ぎ出された「理解し難い、しかし、確実に存在する美」をご覧いただければ幸いです。

会期：12月5日(火)～2月25日(日) 月曜休館/会場：本館14室



平成30年(2018) 謹賀新年 本年もよろしくお願ひ申し上げます

掲載は申し込み順です

拵合せ致します
日本刀鞘師 水野 美行
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町6-11
TEL 03-33353188
TEL 03-33353180

御刀研磨処楽屋 御刀研磨処楽屋で検査
研師 平井 隆守
岐阜県関市清水町
TEL/FAX 0575-251-0928
TEL/FAX 0575-251-0928
URL onkama@d6.dion.ne.jp
URL http://www.h4.dion.ne.jp/~katana/

刀劍研師 白木 良彦
〒135-00045
東京都江東区古石場1-2-17
TEL 03-3643-3228
TEL 03-3643-3228

奈良県無形文化財保持者
月山 貞利
〒633-00073
奈良県桜井市大字茅原228-18
TEL 0744-443-7330
TEL 0744-443-7330
記念館 42-13230

刀劍・書画・骨董 株式会社 和敬堂
土土 肥肥 富豊 康久
新潟県長岡市市町1-2-16
TEL 02558-3331
TEL 02558-3331
FAX 02558-3331
FAX 02558-3331
URL http://www.wakedou.com

浅草観音裏 美術・骨董・書画・工芸・刀劍・鎧
(株)晴雅堂清水
TEL 11-00032 台東区浅草2-130-11
TEL/FAX 03-33842133
TEL/FAX 03-33842133

川越 優古堂
三浦 優子
埼玉県川越市新宿町1-9-13
TEL 049-249-0700
TEL 049-249-0700
FAX 049-249-0700
FAX 049-249-0700

刀劍研師 黒田 守寿
生きた研ぎをしたい
福岡市博多区東雲町1-4-15
TEL 092-581-1728
TEL 092-581-1728

株式会社美術刀劍松本
松本 富夫
松本 義行
千葉県野田市清水199-11
TEL 0477-221-1122
TEL 0477-221-1122
URL info@tokken-matsumoto.jp

株式会社 眞玄堂
〒101-0044
東京都千代田区鍛冶町1-7-17
TEL 03-3252-7844
TEL 03-3252-7844
FAX 03-3252-7844
FAX 03-3252-7844

銀座長州屋
東京都中央区銀座3-10-4
TEL 03-3573-2801
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2801
FAX 03-3573-2801
URL http://www.tokenshibata.co.jp

株式会社 刀劍柴田
柴田 光隆
〒104-0061
東京都中央区銀座5-6-8
TEL 03-3573-2801
TEL 03-3573-2801
FAX 03-3573-2801
FAX 03-3573-2801
URL http://www.tokenshibata.co.jp

刀劍小道具・甲冑・売買取及相談承ります。
株式会社 むさし屋
代表取締役 猿田 慎男
〒590-0025
大阪府堺市堺区向陵東町1-2-19
TEL 072-251-8600
TEL 072-251-8600
FAX 072-251-8600
FAX 072-251-8600
URL http://www.musasya.co.jp

刀劍・古美術 宗亨庵
村中 亨
富山県高岡市江尻1235-13
TEL 0766-281-2220
TEL 0766-281-2220
FAX 0766-281-2220
FAX 0766-281-2220

つるぎの屋
(株)永和堂
朝倉 万幸
朝倉 忠史
長野県長野市南郷町1-136
TEL 026-228-0001
TEL 026-228-0001

冥冥 亮吉也
冥冥 亮典也
東京都北区西ヶ原4-35-11
TEL 03-3576-1175
TEL 03-3576-1175
FAX 03-3576-1175
FAX 03-3576-1175

日本刀の 店主 小暮 昇一
江州屋
〒526-1315
滋賀県知多郡愛荘町各務50-1
電話 0749-42-5106
携帯 090-3162-7691
http://www.shoushichihonou.com

研誠堂
石塚 孝夫
〒113-0034
文京区湯島1-2-11
TEL 080-5473-0055
TEL 080-5473-0055

美術刀劍 勝武堂
東京都中野区本町4-45-10
TEL 03-3381-3071
TEL 03-3381-3071
URL http://www.shoubudou.co.jp

飯田高遠堂
代表取締役 飯田 慶雄
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3395-1133
TEL 03-3395-1133
URL http://www.itanokendo.com

銀座 盛光堂
齋藤 恒
東京都中央区銀座8-11-14 盛光堂ビル
TEL 03-3569-2251(代)
TEL 03-3569-2251(代)
URL http://www.ginzaseikodo.com

武家文化の美と心
刀劍ギャラー 樹林
代表 森野 幸男
〒803-0812
北九州市小倉北区室町2-2-15
TEL/FAX 093-561-0449
TEL/FAX 093-561-0449

刀劍・小道具・鎧 刀劍杉田
代表 杉田 侑司
豊島区池袋2-49-5
TEL 03-3980-1146
TEL 03-3980-1146
FAX 03-3980-1146
FAX 03-3980-1146
URL info@token-net.com

やしま 齋藤 雅稔
東京都西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-5310
FAX 042-463-5310

やしま 齋藤 隆久
東京都西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-5310
FAX 042-463-5310

刀劍・古美術・切手・古美術品 売買取
(株)城南堂古美術店
代表取締役 田中 勝憲
東京都目黒区上目黒4-31-10
TEL 03-3710-6776
TEL 03-3710-6776
携帯 090-33208196
携帯 090-33208196

赤荻刀劍店
赤荻 稔
茨城県下妻市下妻乙172-5
TEL 0296-444-2643
TEL 0296-444-2643

美術刀劍研磨・販売 美術工芸 武神
黒田 充弘
〒514-0022
三重県津市愛宕町158
TEL 059-261-1982
TEL 059-261-1982
携帯 080-4307-1187
携帯 080-4307-1187

刀劍の店 玉山名史刀
玉山 祐司・真敏
岡山市北区田町1-1-1
TEL/FAX 086-2227-4188
TEL/FAX 086-2227-4188
URL http://www.touken.com

甲冑・刀装具 福隆美術工芸
網取 譲一
東京都中央区銀座2-11-4
TEL 03-3541-1820
TEL 03-3541-1820

刀劍 書画 骨董 美術品
株式会社 懐玉堂
代表取締役 鳥谷 部守
札幌市中央区南3条西6丁目5
TEL 011-271-0555
TEL 011-271-0555

刀劍・古美術 蔵田美術
代表 倉田 勝彦
〒170-0013
東京都豊島区東池袋4-23-16
TEL 03-3989-1185
TEL 03-3989-1185
FAX 042-1965-3303
FAX 042-1965-3303

札幌 横山美術
横山 忠司
〒060-0053
北海道札幌市中央区南三条東1-16
TEL 011-2251-1765
TEL 011-2251-1765
FAX 011-2251-1788
FAX 011-2251-1788

株式会社 舟山堂
稲留 修一
東京都千代田区内神田2-4-13 石垣ビルB1
TEL/FAX 03-5297-8144
TEL/FAX 03-5297-8144

銀座誠友堂
中央区銀座5-1 銀座ファイブ2階
TEL 03-3558-8001
TEL 03-3558-8001
URL http://www.seiyudo.com

服部美術店
東京都中央区日本橋3-5-12・2F
TEL 03-3274-5170
TEL 03-3274-5170

山城屋
嶋田 伸夫
東京都豊島区東池袋1-21-8
TEL 03-3942-2701
TEL 03-3942-2701

(株)日本刀劍
伊波 賢一
〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-11
TEL 03-3434-4321
TEL 03-3434-4321

株式会社 丸英刀劍
代表取締役 瀨下 明
栃木県小山市乙女3-17-30
TEL 0285-145-0158
TEL 0285-145-0158
URL https://刀販売.com

銀座 丸英
瀨下 昌彦
東京都中央区銀座7-13-22 友野ビル1階
TEL 03-6264-0739
TEL 03-6264-0739
URL https://maruhideouken.com

もちだ美術
持田 具宏
さいたま市中央区上落合1-9-4 447
TEL 048-855-4792
TEL 048-855-4792

刀劍鑑定書発行業務
一般社団法人 倉敷刀劍美術館
代表理事 佐藤 均
〒710-1101
岡山県倉敷市茶屋町173
TEL 086-420-0066
TEL 086-420-0066

美術刀劍・刀装具等の売買取、加工承ります
株式会社 コレクション情報
代表取締役社長 村上 和比子
岐阜県岐阜市西郷本郷1-49
TEL 058-274-1960
TEL 058-274-1960
URL http://www.samurai-nippone.net

株式会社 金丸刀劍店
金丸 一三
東京都大田区東雪谷2-28-10
TEL 03-3728-3323
TEL 03-3728-3323

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
川島 貴敏
〒104-0061
東京都中央区銀座6-17-16 岩月ビル2階
TEL 03-3289-1136
TEL 03-3289-1136
FAX 03-3289-1136
FAX 03-3289-1136
URL info@taibun.com
URL http://www.taibun.com

刀劍・古美術・古書画 (株)日宝
代表取締役 田澤 二郎
〒160-8321
東京都新宿区西新宿1-11-4
東京百貨店 新宿店6階 刀劍サロン
TEL 03-5321-1530(直通)
TEL 03-5321-1530(直通)

木村美術刀劍店
木村 義治
群馬県高崎市萩原町484-110
TEL 027-352-1159
TEL 027-352-1159
FAX 027-352-1159
FAX 027-352-1159

日本刀オークション 葵美術
鶴田 一成
東京都渋谷区代々木4-22-11
TEL 03-3375-5553
TEL 03-3375-5553
URL http://www.aoi-japan.jp